

シャロンの花だより

東教区女性会会報 第83号(22期 第3号)

2013年7月29日

主題 「虹の架け橋」

～祈り・仕え合うことで繋がりを～

「わたしは雲の中にわたしの虹を置く。

これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。」創世記9章13節

「共にあるはキリスト」

ローマの信徒への手紙 12:9-18

田園調布教会 宮本 新牧師

イースターに初老の男性が受洗されました。教会生活も長く女性会や役員など奉仕も忠実にされていたAさんの夫でした。Aさんを教会のどころまでよく車で送られる様子を拝見していましたが、一緒に教会に来られることはほとんどありませんでした。しかしAさんの祈りに覚えられていた一人でした。聖書の学びの時など、Aさんから「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます」(言行録16章)の意味について何度か尋ねられたことがあります。それから月日が経ち、Aさんの夫は突然のように教会に通いはじめ、やがて洗礼の準備を申し込まれ、受洗されました。一番驚いていたのは当のAさんでした。洗礼は神の恵み、人を導くのは神。私たちが祈る相手も神。そういうことを思わされた出来事でした。

「祈り・仕えあう」ということは分けて考えられることもありますが、やはり一つの事柄のように思います。自分の思いや経験、喜びや悲しみを超越して、「倦まずたゆまず」つづけられる祈りがあることをAさん夫妻を通じて教わったように思います。「共にあるはキリスト」。これを深く信頼して、誰かのために手を合わせ、労するものに、「実は働いたのは私ではなく、神の恵みなのです」と言える信仰の実りがあるように思います。私たちが祈りつながるのは、このキリストの名によってです。その信仰にあって女性会の歩みが祝福され、幾重にも豊かな実りがありますよう祈りたいと思います。



東教区女性会 会長会報告

22期東教区女性会・第3回会長会
2013年4月13日(土) 10:30~14:50 雪ヶ谷ルーテル教会にて

- <第一部> 開会礼拝 説教：宮本新牧師
- <第二部> 活動報告等
- <第三部> 講演及び憩いの時
講演：松浦和子姉(秦野八木病院 看護師)
※以下に要旨を掲載
演奏：宇野正徳牧師によるフルート演奏

講演要旨 「高齢者を取り巻く医療・介護の現状と課題」

松浦和子姉(看護師・市ヶ谷教会)



講演中の松浦和子姉

超高齢化社会に突入している今日、世界一の長寿国と言われて久しいですが、手放しで喜べない状況に有ることも事実です。

私たち医療に従事している者から日常を見ると、人生を豊かに過ごし天命を全うしているとは思えない現状に日々出会っております。医療の現場からの見方として、病気を抱えながら長生きしている、というのが現状の様に思われます。

慢性化・長期化している疾病に対して、社会全体で支え合いながら共存の道を開こうとして介護保険が2000年に誕生しました。日本経済はアベノミクスとかで好転の兆しが見え隠れしていますが、経済弱者や年金生活者は厳しい実態に直面しています。

高齢者がより良く生きていける為の条件や問題点を考えますと、まず精神面では記憶力の低下、欲情、注意力の低下が起こり、身体的には運動能力の低下により腰痛、骨粗鬆症、転倒等による骨折が発生しています。

更に顕著な疾病としては、感染症(肺炎・尿路感染症・インフルエンザ等)生活習慣病としての高血圧、慢性呼吸器疾患、糖尿病等があります。これらの原因と治療法、予防対策について個々人の症状や認知度に応じてきめ細やかな対応が必要です。